

まえがき

田辺市の扇ヶ浜公園の一角に、鳥山啓翁の顕彰碑が建っています。鳥山翁は、この地の出身で、国学、地理学、英語、生物学など広範な学識を持つ博物学者です。南方熊楠が和歌山中学校在学中に博物学や作文を教え、その後、和歌山師範学校を経て東京華族女学校教授を務めました。熊楠が生涯でただ一人、鳥山翁を「先生」と呼び、熊楠が後に見せた「幅の広い、比較文化的関心に満ちた学問の展開」が、鳥山翁の足跡に非常に似通っているとも言われ、そこに師弟間に流れる好奇心の広がりを感じさせられます。ちなみに、顕彰碑の側の歌碑「軍艦」は、鳥山翁の作詞です。

教育の基本は、教員と児童生徒との信頼関係です。もし、熊楠が鳥山と出会っていなければ、あの熊楠は無かったかも知れません。子どもの可能性を信じ、それを伸ばす指導者の在り方は、昔も今も不変であり、益々その重要性は増していると言えます。

昨年7月に出された中央教育審議会の答申「今後の教員養成・免許制度の在り方」の中では、教員が研究と修養に努め、資質能力を向上させることの重要性について言及し、「学びの精神」がこれまで以上に強く求められていることを指摘しています。人間は教育によってつくられると言われますが、その成否は教員にかかっていると言っても過言ではありません。県民の期待に応える学校教育を実現するためには、教育の専門家としての確かな力量に裏打ちされた自信と誇りを持って職責を果たすことが不可欠であると考えます。

本県における長期研修員制度は、昭和50年に始まりました。これまでに延べ371名が様々な教育課題についての研究を行い、本県教育の発展に大きく寄与してきました。本年度も、学びの丘の指定するテーマや自ら設定したテーマ、教育相談等について、実践的研究を進めてきました。学力診断テストの結果に基づく授業改善や学校組織マネジメントの在り方をはじめ、いずれの研究も教育現場で直面している課題解決をねらいとしており、その成果は、各学校における教育実践の一助になるものと確信しております。

ここに、1年間にわたる研究・研修成果の一端を「研究集録 第32集」として刊行しました。紙面の都合上、資料や授業記録等は大幅に割愛しなければならず、筆至らぬところもあるかと思いますが、真摯な研究態度をお汲み取りいただき、是非とも御高覧のうえ、忌憚のない御意見・御批判をいただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、本年度、各研修員が研究を進めるにあたり、温かい御支援・御協力をいただきました関係各位に心からお礼申し上げます。

平成19年3月

和歌山県教育センター 学びの丘
所長 吉松 敏隆